

体験で学んだことを発表しました（箕面市立萱野北小学校） 「森の探検隊」発表会

こだま通信第61号（2014の2）で、箕面市立萱野北小学校5年生53名が6月30日に箕面体験学習の森で体験した「森の探検隊」の様子を報告しましたが、7月15日、同小学校の授業で子どもたちが、当日の体験の様子を発表しました。



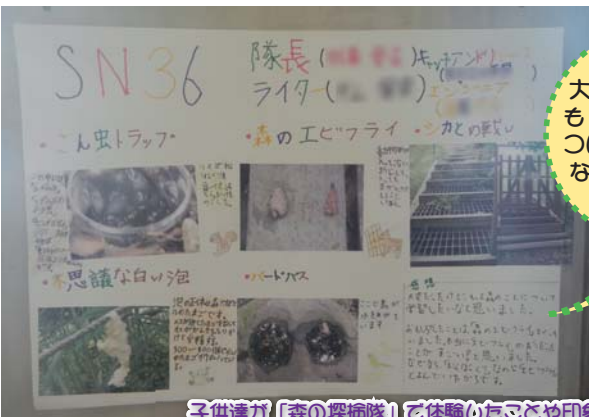
「森の探検隊」は、4、5人ずつ班に分かれた子どもたちが、あらかじめ森の中に設置された、ニホンジカによる食害から樹木等を守る防護柵や小鳥の巣、昆虫、植物などについて、ポイントごとに示された指令（問題）に回答しながらポイントを回る体験でした。

発表会は「森の探検隊」で体験したことや印象に残ったことに、学校に戻って調べたことを加え、撮影した写真とともに班ごとに模造紙にまとめ、2クラスの教室で、元気いっぱいに行われました。

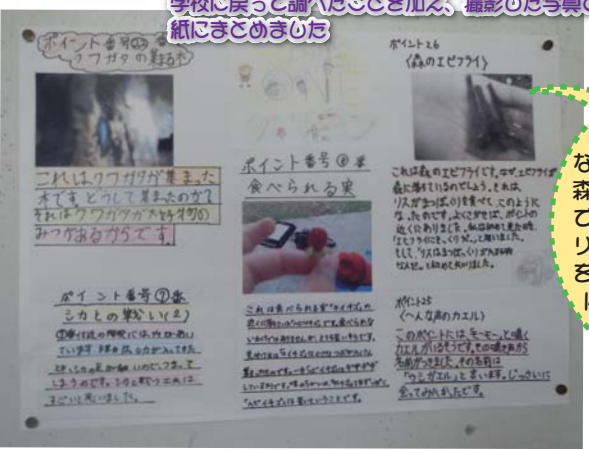
「シカとの戦い」には、12班のうち半数以上が探検しており、「シカが森の植物を食べることを初めて知りました」「パッチディフェンスなど、ちゃんと工夫されていると思いました」「シカが入ってきて木などを荒らさないようにするためいろいろ工夫している、毎日戦うのは大変だから工夫するのはいいことだと思います」など、シカから森の植物を守る苦勞を理解してくれました。

木苺（ニガイチゴやナガバモミジイチゴ）を食べたり、モリアオガエルの卵やウシガエルの声、森のエビフライ（リスの食べた松ぼっくりの残骸）を観察したりした色々な発見が、子どもたちの感想とともに発表されました。

森の中で体験して自分で考えた貴重な体験をした子どもたちは、箕面の森のことを知っただけでなく、森のために自分たちがどのように行動すべきかも発表がありました。これからも森に興味を持ってたくさん学んでほしいと感じました。



大変だったけど、もっと森のことについて学習したいなと思いました。



なぜエビフライが森に落ちているのでしょうか。それはリスが松ぼっくりを食べたこのようになったのです。

ディアライン -シカが森林を食べつくしてしまう-

箕面国有林では、枝葉の高さを揃えて刈り込んだように見える樹木、樹皮を剥がされた樹木が見られます。これらは増えすぎたシカ（ニホンジカ）の仕業です。



樹皮を剥がされた樹木。シカの上あごには前歯がなく下あごの歯で樹皮を剥ぎ取ります。樹種によっては皮を剥がされると枯れてしまう種類があります。



枝葉の高さを揃えて刈り込んだように見えますが、これは、シカが伸び上がって届く範囲まで木の葉を食べ尽くした、**ディアライン（シカ摂食線、ブラウジングライン）**です。



この森は、シカが入れないように網で囲いました。柵外(右側)はシカに下草を食べ尽くされてしまいましたが、シカが入れない柵内(左側)には草が青々と茂っています。

平成26年度「森林の調査隊！！フォトコンテスト」 作品募集中！！ 沢山のご応募をお待ちしております！！

- * 募集締切10月6日(当日消印有効)
- * 募集テーマ



①「身近な森で見つけた動植物(昆虫・動物・植物)」部門
・鎮守(神社)の森やお寺の森など、身近な森や里山を探検して見つけた、その森に生息する昆虫や動物の姿及び植物などをテーマとした写真

応募対象：小中学生の個人
応募写真：1枚単位、A4判カラー(デジタル写真)
※200字程度のコメントを添付

②「森林と人との関わり」部門
・森林(里山)散策や森林での整備活動などで感じた心象やボランティア活動等での自然とのふれあいなどをテーマとした写真

応募対象：小学生以上~大人の個人又はグループ
応募写真：3枚1組、A4判カラー(デジタル写真)
※400~600字程度のコメントを添付

* 応募方法
応募票に必要事項を記入し、各写真ウラ面に応募票を貼付して郵送してください。

(応募票は、ホームページからもダウンロードできます。)

募集の詳細については、ちらしやホームページ
http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/
をご覧ください

箕面森林ふれあい推進センターでは、主に京都、大阪の都市周辺の国有林野をフィールドとして、NPO、ボランティア、地域住民等による自主的な森林づくり、里山の整備、自然再生活動、森林環境教育などへの技術指導等の支援に取り組んでいます。

林野庁 近畿中国森林管理局
箕面森林ふれあい推進センター

TEL:06-6881-2013/FAX:06-6881-2055

〒530-0042

大阪市北区天満橋一丁目8-75

近畿中国森林管理局3F

URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/

